

# 小山町観光振興計画 アクションプラン



小 山 町

# 目 次

## I アクションプランの概要

1 策定の目的	1
2 計画期間	1
3 取組項目	1
4 観光振興計画体系図	2

## II アクションプラン（基本目標）

1 基本目標	5
--------	---

## III アクションプラン（基本方針及び具体的施策別）

1 富士山交流観光プログラム	
（1）須走口五合目を再整備します	5
（2）登山者などへの対応を充実します	6
（3）須走口五合目散策コース・富士箱根トレイルを活用します	6
（4）富士山の眺望スポットを整備します	7
（5）富士浅間神社の魅力を高めます	7
（6）富士山の環境保全を観光振興につなげます	7
（7）美化活動を進めます	7
2 元気にぎわい観光プログラム	
（1）金太郎をシンボルとした観光活性化を図ります	8
（2）スポーツによる誘客を進めます	8
（3）農のある暮らしをにぎわいに活かします	9
（4）自転車による観光振興を進めます	9
（5）自衛隊との連携による観光振興を進めます	9
（6）観光拠点を活用します	10
（7）新たな観光スポットを整備します	10
（8）ハイキングコースを活用します	11
（9）ロケ地としての強みを活かし知名度を高めます	11
3 観光インフラ整備プログラム	
（1）シティプロモーションの充実を図ります	12
（2）おもてなし人材による着地型観光を充実します	12
（3）インバウンドへの対応を強化します	13
（4）観光情報の基盤を整えます	13
（5）観光・交通基盤を整備・活用します	13
（6）広域連携を推進します	14
（7）特産品・名産品の充実を図ります	14
（8）“小山町”をエリアとしてアピール・ブランド化します	14
（9）日本版DMO法人を設立し観光地域づくりを推進します	15

## I アクションプランの概要

### 1 策定の目的

小山町は「富士山頂と金太郎生誕の地」であり、世界文化遺産である富士山とその関連資産をはじめ、豊門会館、足柄城跡といった文化財・史跡、金時公園、富士スピードウェイなどの大型観光施設、11のゴルフ場、2つの道の駅、温泉施設、数々のロケ地と小山フィルムファクトリーなど、豊富な観光資源に恵まれています。

さらに、2020年までには、新東名高速道路の開通や小山PAとSIC\*の開設、足柄SAのSIC設置など、高速交通基盤の整備も進んでおり、首都圏からのアクセスが向上します。足柄SIC周辺には大型リゾートホテルの開発も決定しています。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの外国人観光客がこの富士山周辺地域を訪れる可能性があります。

これらをチャンスととらえ、「平成31年度に観光交流客数500万人」を目指すべく、平成27年3月に「小山町観光振興計画」を策定しました。また、観光振興計画の推進母体となる「日本版DMO」の設立をめざし、本町単独で地域型DMOへの候補法人登録を行うなど、観光振興に取り組んでいます。

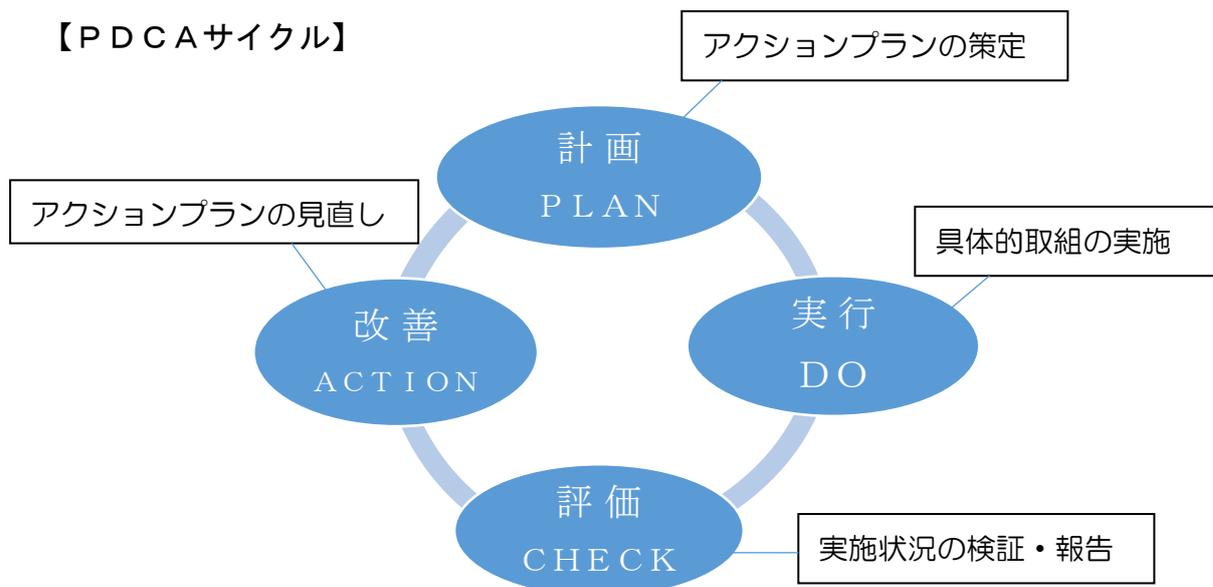
今回策定する、観光振興計画アクションプランは、観光振興計画に掲げた基本目標、基本方針及び具体的施策を着実に推進していくため、施策毎に具体的な取組や数値目標等を明らかにするものです。

\*SIC:スマートインターチェンジ

### 2 計画期間

観光振興計画に基づき平成31年度までを計画期間とし、取組の実施状況等を踏まえ、毎年見直しを行います。

なお、平成29年度以降の計画策定に当たっては、毎年度、PDCAサイクルを活用して事業の見直しを行います。



### 3 取組項目

アクションプランに掲げる取組項目は、観光振興計画の体系（関連施策を含む）に基づいて整理しています。

## 4 観光振興計画体系図

### (基本目標)

約430万人(平成25年度) ⇒ 500万人(平成31年度)

”小山町へおいで！ 世界から” 観光交流500万人プログラム

### (具体的施策)

#### (1) 須走口五合目を再整備します

- ① (仮称)富士山須走口インフォメーションセンターの設置
- ② 駐車場の整備
- ③ 整備計画の推進
- ④ ふじあざみラインの道路改良の推進

#### (2) 登山者などへの対応を充実します

- ① 登山案内及び指導の強化
- ② 登山装備サービスの提供
- ③ 世界遺産案内板の設置
- ④ 須走ルートの魅力の紹介
- ⑤ 須走流登山スタイルの確立

#### (3) 須走口五合目散策コース・富士箱根トレイルを活用します

- ① 案内板の設置
- ② 散策ツアーの開催
- ③ 富士箱根トレイルの管理
- ④ コースの魅力の情報発信
- ⑤ ガイド付き散策ツアーの開催
- ⑥ 来訪時期や所要時間によるコースの設定

#### (4) 富士山の眺望スポットを整備します

- ① 富士山眺望スポットの充実
- ② 案内看板の整備・案内マップの作成

#### (5) 富士浅間神社の魅力を高めます

- ① 須走地区を富士山観光の拠点としたまちづくり
- ② 住民参加による観光地づくり
- ③ 富士浅間神社へのツアー誘客の強化
- ④ ボランティアガイドによる案内
- ⑤ 富士浅間神社のPR

#### (6) 富士山の環境保全を観光振興につなげます

- ① 景観条例の制定
- ② 富士山と調和する景観づくり
- ③ 富士山における環境学習の場の提供
- ④ マイカー規制の実施
- ⑤ 富士山環境ツアーの開催

#### (7) 美化活動を進めます

- ① 富士山清掃の実施
- ② 登山者マナーの向上

### (基本方針1)

#### 富士山交流観光プログラム

世界文化遺産に登録された富士山の文化、水と緑に恵まれた自然、抜群の景観を小山町のすばらしい観光資源として活用し、観光交流客数を増やします。

## (基本方針2)

### 元気にぎわい観光プログラム

金太郎のように元気にぎわいのある町を目指し、自然や歴史、文化、施設など様々な観光資源を活用し、観光交流客数を増やします。

#### (具体的施策)

- (1) 金太郎をシンボルとした観光活性化を図ります
- ① 金太郎シンボルデザインを活用したPR
  - ② 金太郎商品のブランド化
  - ③ 金時公園の活用
  - ④ 金太郎を活用した広域連携の推進
  - ⑤ 相撲大会の開催
  - ⑥ 金太郎伝説ゆかりの地のPR・紹介

- (2) スポーツによる誘客を進めます
- ① スポーツ大会などの誘致・拡充
  - ② 合宿などの誘致
  - ③ 富士スピードウェイとの連携

- (3) 農のある暮らしをにぎわいに活かします
- ① 農産物直売所の整備
  - ② 農家民泊の試み
  - ③ 農業体験の推進
  - ④ 林業体験の推進

- (4) 自転車による観光振興を進めます
- ① 自転車大会の拡充
  - ② 新たな自転車大会の開催
  - ③ 「サイクリストにやさしいまちづくり」の推進

- (5) 自衛隊との連携による観光振興を進めます
- ① 自衛隊イベントを通じた町のPR
  - ② 町内イベント等への参加依頼

- (6) 観光拠点を活用します
- ① 道の駅の活用
  - ② あしがら温泉等の活用
  - ③ 豊門公園等の活用

- (7) 新たな観光スポットを整備します
- ① ホタルの里づくり
  - ② 北郷の森の整備
  - ③ リゾート宿泊機能の誘致
  - ④ 産業観光の提供

- (8) ハイキングコースを活用します
- ① 足柄古道などの活用
  - ② 市町村連携によるハイキングコースの活用
  - ③ (仮称)おやま物語100選の作成・散策

- (9) ロケ地としての強みを活かし知名度を高めます
- ① ロケ地の発掘・整備と活用
  - ② 映画祭の開催
  - ③ ロケの誘致
  - ④ 民間組織の設立支援

(基本方針3)

観光インフラ整備プログラム

町の観光資源の魅力を最大限に引き出すために、情報・交通基盤の整備や広域連携の推進、観光客の受け入れ態勢の充実などの観光インフラの整備を行います。

(具体的施策)

(1) シティプロモーションの充実を図ります

- ① 旅行会社への観光資源の紹介
- ② 首都圏などで開催される展示会への参加

(2) おもてなし人材による着地型観光を充実します

- ① 観光ガイドの育成
- ② 次世代を担う人材の育成
- ③ 小山町観光検定の実施
- ④ 小山町観光親善大使の認定

(3) インバウンドへの対応を強化します

- ① プログラムの開発
- ② 外国人観光客へのおもてなしの充実
- ③ 外国語表記の充実
- ④ 東京オリンピック・パラリンピックに向けた環境整備

(4) 観光情報の基盤を整えます

- ① 総合的な観光情報の集約・管理
- ② Wi-Fiスポットの整備
- ③ ネット予約・決済環境の整備促進

(5) 観光交通基盤を整備・活用します

- ① 季節運行バスの利便性向上
- ② 小山PA/足柄SA周辺の整備
- ③ ユニバーサルデザイン化の推進

(6) 広域連携を推進します

- ① 広域ネットワークによる取り組みの推進
- ② 金太郎にちなんだ交流の活性化

(7) 特産品・名産品の充実を図ります

- ① 道の駅・足柄SA・小山PAにおける販売促進・PR
- ② 特徴ある商品を育成
- ③ インターネットを活用した販売促進
- ④ ロケ地を活用した特産品の販売促進
- ⑤ ご当地グルメの開発

(8) 小山町をエリアとしてアピール・ブランド化します

- ① 地域ブランドの構築
- ② ブランドイメージの確立

(9) 日本版DMO候補法人を設立し観光地域づくりを推進します

- ① 町内観光の実態把握
- ② 戦略的観光プロモーションの実施
- ③ DMO設立のための合意形成

## Ⅱ アクションプラン（基本目標）

約430万人（平成25年度） ⇒ 500万人（平成31年度）

年度別目標(指標)	27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
観光交流客数	390万人	430万人	450万人	470万人	500万人

※平成27年度は実績を記載、平成28年度以降は年度ごとの目標を記載

## Ⅲ アクションプラン（基本方針及び具体的施策別）

（凡例）

区分： **継続**（従来施策を継続・拡充して実施） **新規**（新規に施策を実施）

時期： **A**（短期） **B**（中期） **C**（長期）

主体： **町**（小山町） **観**（観光協会） **商**（商工会） **事**（事業者） **住**（住民団体等）

※現段階で実行が期待される団体

### 【基本方針1】富士山交流観光プログラム

世界文化遺産に登録された富士山の文化、水と緑に恵まれた自然、抜群の景観を小山町のすばらしい観光資源として活用し、観光交流客数を増やします。

#### 1-(1) 須走口五合目を再整備します

概要	須走口五合目にある案内所の機能を見直し、登山者の避難や休憩、登山情報、一年間の富士山の姿の紹介、周辺の観光案内、バス案内などの機能をもつ施設の設置を進めるとともに、須走口五合目の駐車場の再整備、駐車場から登山口へのアプローチの改善も併せて進めます。また、ふじあざみラインにおいて、大型観光バスの通行困難箇所の道路改良を推進します。								
年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標					
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
(仮称)富士山須走口インフォメーションセンターの設置、駐車場の整備、アプローチの改善	継続	A	町(環境省)	整備基本構想策定	整備基本計画策定	環境省、県等との協議	実施設計	センター設置 駐車場整備 アプローチ改善	
ふじあざみラインの道路改良の推進	継続	A	町(県)	9.4kmポスト改良 →		10.2kmポスト改良 →		9.4kmポスト改良	
					10.8kmポスト改良 →				

### 1-(2) 登山者などへの対応を充実します

概要	<p>登山道や気象情報など、登山に必要な情報を提供するため、Wi-Fi環境の整備を行います。また、富士山ナビゲーターを須走口五合目に配置し、安全な登山に向けた指導・啓発を実施します。</p> <p>須走ルートは、東側に位置していることから、どこからでも御来光が見られ、森林限界が高く植生が豊かであり、砂走りがあるなど、魅力にあふれています。登山ガイドやパンフレット、標識などを通じてこれらの魅力を発信します。</p> <p>富士山信仰の歴史的・文化的な価値を後世に伝える富士浅間神社を参拝してから富士山に登る「須走流の登山スタイル」を情報発信します。(富士山須走口旧登山道調査実施中)</p>								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
Wi-Fi環境の整備(設置箇所数)(富士山関連分)	継続	A	町	2箇所	2箇所	14箇所	14箇所	14箇所	14箇所
富士山ナビゲーターの配置	継続	A	町	4人	4人	4人	4人	4人	4人
登山装備サービスの提供	新規	B	事	登山装備の販売・レンタルの実施					
世界遺産案内板の設置	継続	A	町	2基	3基	3基	3基	3基	3基
須走ルートの魅力の紹介(「須走口において情報発信が行われている」と回答する町民の割合)	継続	A	町観	—	32%	35%	40%	50%	

### 1-(3) 須走口五合目散策コース・富士箱根トレイルを活用します

概要	<p>小富士やまぼろしの滝、シャクナゲなどを巡るガイドツアーや、野鳥の会などの団体と協力して、野鳥観察ツアーなどを開催します。また、野鳥をはじめとした豊かな動植物を学ぶことのできる情報を整理し発信します。</p> <p>全長約43kmにわたる富士箱根トレイルの日常的な管理を継続するほか、トレイルの案内や管理に関わる団体、ボランティアの育成に取り組みます。</p> <p>富士箱根トレイルを様々な方に楽しんでいただくため、距離の短いコースの設定や、サンショウバラやブナ林などのコースの魅力を学びながら散策できるガイド付きツアーを季節ごとに開催します。</p>								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
案内板の設置(小富士、まぼろしの滝への誘導看板)	新規	B	町	2基	2基	2基	2基	2基	2基
散策ツアーの開催(五合目周辺での開催回数)	継続	A	観	2回	2回	3回	4回	5回	
富士箱根トレイルの管理(管理団体数)	継続	A	町	8団体	8団体	9団体	10団体	11団体	
ガイド付き散策ツアーの開催(富士箱根トレイル等での開催回数)	継続	A	観	1回	1回	2回	3回	4回	
来訪時期や所要時間によるコース設定(コース設定数)	継続	B	町	—	—	4コース	4コース	4コース	

#### 1-(4) 富士山の眺望スポットを整備します

概要	富士山の眺望スポットとなる地点を定め、適切に維持管理し、多くの方に訪れていただく様に効果的に情報発信します。また、駐車場や案内看板などのインフラ整備を進めるとともに、案内マップを作成します。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
富士山眺望スポットの充実(眺望スポット箇所数)	継続	A	町	—	—	6箇所	6箇所	6箇所	

#### 1-(5) 富士浅間神社の魅力を高めます

概要	富士浅間神社周辺の回遊性を高め、須走地区を富士山観光の拠点とするため、地域資源を活かした門前町の魅力づくりに向けて、ワークショップなどを通じ、住民との協働による検討を進めます。富士浅間神社についての知識を持つ人材を育成し、ボランティアガイドによる案内サービスを行います。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
須走地区を富士山観光の拠点としたまちづくり	継続	A	町住	須走地区金太郎計画2020推進協議会との協働による観光地づくりの推進					
ボランティアガイドによる案内(案内回数)	継続	A	町	1回	3回	4回	5回	5回	

#### 1-(6) 富士山の環境保全を観光振興につなげます

概要	富士山を中心とした町の景観を保全し、活用するための景観条例を制定し、須走口五合目の施設整備や道路整備に際して、周辺の景観との調和に配慮します。マイカー規制を通して須走口の適正利用を推進するとともに、富士山の環境負荷の軽減に努めます。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
景観条例の制定	新規	A	町	制定	施行	施行	施行	施行	
富士山と調和する景観づくり(「富士山をはじめとした豊かな自然環境を活かした美しいまちづくりができています」と回答する町民の割合)	新規	C	町	45%	48%	55%	60%	70%	
富士山における環境学習の場の提供	新規	B	町	須走口の自然の豊かさなどを学べる機会の提供					
マイカー規制の実施	継続	A	町	47日間実施	63日間(全日)	63日間(全日)	63日間(全日)	63日間(全日)	

#### 1-(7) 美化活動を進めます

概要	富士山一斉清掃を行うとともに、環境美化の啓発に努めます。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
富士山清掃の実施(環境美化・啓発活動実施回数)	新規	A	町	3回	4回	4回	4回	4回	
登山者マナーの向上	継続	A	町	パンフレットなどを活用した登山マナーの啓発					

## 【基本方針 2】元気にぎわい観光プログラム

金太郎のように元気にぎわいのあるまちを目指し、自然や歴史、文化、施設など様々な観光資源を活用し、観光交流客数を増やします。

### 2-(1) 金太郎をシンボルとした観光活性化を図ります

概要	町制100周年時に制定した金太郎シンボルデザインを公共の出版物や金太郎に関連する商品、報道映像のバックパネルなどへの掲出により、金太郎生誕の地である小山町をPRします。 ワークショップなどを通じて整備計画をまとめ、金時公園の再生に向けた取り組みを進めます。 昔話の中で、金太郎が熊と相撲を取っていたという逸話にちなみ、アマチュア相撲大会の誘致や、現在富士山金太郎春まつりでやっている子ども相撲大会の継続に取り組みます。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
金太郎シンボルデザインを活用したPR(外部使用件数)	継続	A	町	7件	10件	12件	14件	16件	
金時公園の活用(整備)	継続	B	町	整備計画の策定	実施設計	整備	活用		
金太郎を活用した広域連携の推進(金太郎をテーマとしたイベント回数)	継続	B	町	検討			1回	1回	
相撲大会の開催(開催回数)	新規	A	町	1回	1回	1回	2回	2回	
金太郎伝説ゆかりの地のPR・紹介(「金太郎生誕の地おやまのPRが行われている」と回答する町民の割合)	継続	A	町観	—	47%	50%	55%	60%	

### 2-(2) スポーツによる誘客を進めます

概要	NPO法人小山町体育協会や民間事業者と協力して、スポーツ大会(ゴルフ)などの誘致・拡充を図ります。 富士スピードウェイと連携して、モータースポーツをはじめ、マラソン、自転車などのイベントに訪れる多くの方に対して、町内の温泉や観光資源をPRし、誘客につなげます。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
スポーツ大会などの誘致・拡充(ゴルフ大会開催回数)	新規	B	町	2回	2回	3回	3回	4回	
合宿などの誘致(合宿件数)	継続	B	町	調査			29年度調査に合わせ目標を設		
富士スピードウェイとの連携(出展回数)	継続	A	町	10回	11回	12回	12回	12回	

### 2-(3) 農のある暮らしをにぎわいに活かします

概要	地元農作物の販売を拡大させるために、道の駅などの農産物直売所を充実させます。田植えや収穫体験、収穫した野菜の加工体験などのグリーンツーリズムの促進を図り、首都圏に近い優位性を活かした交流を創出します。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
農産物直売所の整備 (出荷者数)	継続	A	町		139人	140人	145人	147人	150人
農家民泊の試み	新規	C	町		—	—	農家民泊の仕組みづくり		
農業体験の推進 (収穫体験件数)	継続	A	町		4件	4件	5件	5件	6件
林業体験の推進	新規	B	町		—	—	林業体験の機会創出		

### 2-(4) 自転車による観光振興を進めます

概要	ふじあざみラインや富士スピードウェイを活用した自転車レースの開催について、関係機関との協力を強化し、参加者の増加を図ります。 サイクルインフォメーションセンターの設置(駿河小山駅前の観光案内所の活用)やサイクルベンチ(ベンチとサイクルラックを組み合わせたもの)の設置など、サイクリストに配慮した環境を作ります。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
自転車大会の拡充 (サイクルイベント参加者数)	継続	A	町		3,128人	3,500人	4,000人	4,500人	5,000人
新たな自転車大会の開催 (開催回数)	新規	C	町		4回	5回	5回	6回	6回
「サイクリストにやさしいまちづくり」の推進(サイクルベンチ・ラックの設置箇所数)	新規	A	町		10箇所	10箇所	11箇所	12箇所	13箇所

### 2-(5) 自衛隊との連携による観光振興を進めます

概要	自衛隊イベントに集まる多くの来訪者に対し、特産品の販売やパンフレットの配布など、町のPRを行います。 町内で実施するイベントの充実を図るため、自衛隊車両の展示や、富士学校音楽隊の出演、ボランティア支援など、自衛隊に参加を依頼します。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
自衛隊イベントを通じた町のPR (イベント出展回数)	継続	A	町		1回	1回	1回	2回	2回
町内イベント等への参加依頼 (参加回数)	継続	A	町		4回	4回	4回	4回	4回

## 2-(6) 観光拠点を活用します

概要	<p>観光客立ち寄りの場として、道の駅の適切な施設管理を行うとともに、地域活性化に向けた施設の有効利用を推進します。</p> <p>温泉施設として、町民いこいの家「あしがら温泉」の適切な施設管理を行うとともに、地場産品販売などを通じ、町の魅力を発信します。</p> <p>国登録有形文化財である豊門会館、西洋館などを擁し、ロケ地としても頻繁に活用されている場所である豊門公園について、適切な管理を行うとともに、イベントの開催など、町のPRに活用します。</p>								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
道の駅「すばしり」の活用(利用者数)	継続	A	事		421千人	423千人	425千人	427千人	429千人
道の駅「ふじおやま」の活用(利用者数)	継続	A	事		686千人	692千人	698千人	701千人	704千人
あしがら温泉等の活用(利用者数)	継続	A	事		136千人	138千人	140千人	142千人	144千人
豊門公園等の活用(イベント開催回数)	継続	A	町		2回	2回	2回	3回	3回

## 2-(7) 新たな観光スポットを整備します

概要	<p>身近な環境の改善により、里山にホテルが飛び交う「ホテルの里」づくりを目指します。</p> <p>富士山の抜群な景観と優れた自然環境に囲まれた立地の優位性を活かして、リゾート宿泊機能をもつ施設を誘致します。(東名足柄サービスエリア(スマートインターチェンジ)周辺に複合観光施設整備予定(アクアイグニス平成30年度))</p> <p>町内の企業などの協力を得て、工場見学など産業観光のプログラムを企画、提供します。</p>								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
ホテルの里づくり(整備箇所数)	新規	B	町		4箇所	4箇所	4箇所	5箇所	5箇所
北郷の森の整備(観光イベント開催数)	新規	B	町		検討			1回	1回
産業観光の提供(工場見学等可能企業数)	新規	A	商		8件	8件	10件	10件	10件



### 【基本方針 3】観光インフラ整備プログラム

町の観光資源の魅力を最大限引き出すために、情報・交通基盤の整備や広域連携の推進、観光客の受け入れ態勢の充実などの観光インフラの整備を行います。

#### 3-(1) シティプロモーションの充実を図ります

概要	首都圏からの誘客を強化するため、旅行会社、出版会社などへの積極的なプロモーションを展開します。 首都圏などで開催される観光や食品などの展示会に町内企業などを募って参加し、町の観光施設や自然環境、宿泊施設、地場産品などをPRします。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
旅行会社への観光資源の紹介(プロモーション実施回数)	継続	A	観		1回	3回	4回	4回	4回
首都圏などで開催される展示会への参加(展示会等への参加回数)	継続	A	観		8回	11回	12回	12回	12回

#### 3-(2) おもてなし人材による着地型観光を充実します

概要	現在観光ガイドとして活躍している方の協力を得て、観光ガイド養成講座を開催して、ガイドを育成し、学ぶ喜び、知る喜びを求める来訪者への対応を充実させます。 中高生を対象とした観光ワークショップや観光ガイド体験などを通じて、次世代を担う人材を育成します。 観光客をもてなす基礎知識として必要な町の観光資源を学ぶために、小山町観光検定制度を創設し、実施します。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
観光ガイドの育成(観光ガイド者数)	継続	A	観		17人	17人	20人	25人	30人
次世代を担う人材の育成(インターンシップ・職場体験の受入数)	継続	A	町		28人	30人	30人	30人	30人
小山町観光検定の実施(実施回数)	新規	B	観		観光検定制度の検討			1回	2回
小山町観光親善大使の認定(認定数)	新規	A	町		1人	1人	1人	1人	1人

### 3-(3) インバウンドへの対応を強化します

概要	外国人観光客に向けた小山町らしさを活かすプログラム・ツアーを開発し、提供します。宿泊施設、飲食店、物販店などの掲出物、パンフレット、ホームページなどにおいて、外国語表記を充実します。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
プログラムの開発 (モニターツアーの参加者(社)数)	新規	B	町		1者	4者	4者	5者	5者
外国人観光客へのおもてなしの 充実(セミナー開催数)	新規	B	町		—	1回	1回	2回	2回
外国語表記の充実(「町内の観光 施設等で外国語表記が充実している」 と回答する町民の割合)	継続	A	町		—	20%	30%	40%	50%
外国語表記の充実(町ホーム ページの多言語化)	継続	A	町	多言語化 実施	継 続				

### 3-(4) 観光情報の基盤を整えます

概要	観光に関する幅広い情報(インターネット・パンフレット等)について集約し、更新などの適切な管理を進めます。 観光客からの要望が多い公衆無線LANサービス「Wi-Fiスポット」の整備を官民協働で推進します。								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
総合的な観光情報の集約・管理 (観光サイトアクセス件数)	新規	A	町		29,733件	35,000件	40,000件	45,000件	50,000件
Wi-Fiスポットの整備(観光施設 での整備箇所数)	継続	A	町		4箇所	16箇所	16箇所	19箇所	19箇所
ネット予約・決済環境の整備促 進	新規	C	町		宿泊施設等でネット予約・決済ができる環境整備の促進				

### 3-(5) 観光・交通基盤を整備・活用します

概要	登山バスやハイキングバスの利便性を高めるため、ルートやダイヤ、停留所位置などの見直しを図ります。 本町の新たな玄関口となる小山PAのSIC周辺において、観光振興につながる土地利用を検討し、宿泊機能や商業機能などの充実に努めます。(平成30年度に東名足柄SAにSICの設置、平成32年度に新東名小山PAにSICの設置を予定)								
	年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
					27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
季節運行バスの利便性向上(乗 車人数)	継続	B	事		9,251人	9,500人	9,700人	9,900人	10,000人
小山PA/足柄SA周辺の整備 (国際観光ホテルの施設数)	新規	B	事		1施設	1施設	1施設	3施設	4施設
ユニバーサルデザイン化の推進	継続	A	町		観光施設等についてユニバーサルデザイン化の推進				

### 3-(6) 広域連携を推進します

概要	表富士観光キャラバン、国道138号沿線観光広域連携協議会、富士山五口協議会など広域ネットワーク組織による取り組みを強化していきます。 金太郎(坂田金時)にちなんで観光交流をしている、岡山県勝央町や京都府福知山市との連携を継続していきます。								
年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標					
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
広域ネットワークによる取り組みの推進	継続	A	町観	広域ネットワーク組織による取り組みの強化					→
金太郎にちなんだ交流の活性化(交流回数)	継続	A	町	7回	8回	8回	8回	8回	

### 3-(7) 特産品・名産品の充実を図ります

概要	農産物や銘菓などの充実を図り、さらに、プレミアムブランドを創設し、本町の特色ある産品をPRします。 商工会のホームページやFacebookなどのSNSを活用して、本町の特産品を全国の方々にPRするとともに、通信販売などの販路拡大を促進します。 現在、町にはご当地グルメと呼ばれるものが存在していないため、町内産の食材を活用したメニューを開発し、観光資源の一つとして発信していきます。								
年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標					
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
道の駅・足柄SA・小山PAにおける販売促進・PR	継続	A	商事	特産品のPRのため、各施設に特産品コーナーを設置					→
インターネットを活用した販売促進(特産品サイトアクセス件数)	新規	A	町商	2,370件	3,000件	3,500件	4,000件	4,500件	
ご当地グルメの開発	新規	B	商	町内産食材を活用したメニューの開発					→

### 3-(8) “小山町”をエリアとしてアピール・ブランド化します

概要	“小山町”としてエリアブランドを構築し、地域の付加価値を高め、経済効果と知名度の向上を目指します。								
年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標					
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	
地域ブランドの構築(商工会優良推奨品数)	新規	B	商	—	10品	15品	20品	30品	
ブランドイメージの確立	新規	B	町	—	—	イメージの明確化	地域内でのイメージ共有	外部へのPR	

### 3-(9) 日本版DMO法人を設立し観光地域づくりを推進します

年度別目標(指標等)	区分	時期	主体	達成目標				
				27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度
町内観光の実態把握 (旅行消費額、外国人宿泊者数等)	新規	A	町	—	—	観光実態調査	継続的なデータ収集・分析	
戦略的観光プロモーションの実施	新規	A	町	—	—	データに基づいた戦略策定	事業実施	
DMO設立のための合意形成	新規	A	町	—	—	組織の設立	法人化	

**概要** 観光振興計画推進の核となる組織『(仮称)小山町観光振興協議会』を設立し、今後の観光施策に必要な各種データ等の継続的な収集分析を行い、戦略的に観光地域づくりを推進します。  
また、平成31年度までに組織の法人化を行い、観光庁が認定する日本版DMO法人を目指します。